
ココロ・キセキ

ファリナ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ココロ・キセキ

【Nコード】

N1068P

【作者名】

ファリナ

【あらすじ】

孤独な科学者がある日一人のロボットを作り上げた。

そのロボットは本物の人間と全く同じ。

話すことも歌うことも出来た。

けれど、ただ一つ足りないものがあつた。

それは、「ココロ」と言うなのプログラム……

(前書き)

ボカロの名曲「ココロ」「ココロ・キセキ」を小説にしてみました。

とある研究所の地下。

いつも一人で作業をしている科学者がいた。

彼はロボットを作っていた。

ある女の子のロボット。

「待っててね、リン……もうすぐだから……」

孤独な科学者……レンは「彼女」にそう囁いた。

それから数日たったある日、ついに「彼女」は完成した。

「やっと……」

もう一度君に会いたい……

そしてその願いは叶った。けれど、目を覚ました「彼女」の顔には表情がなく、ただの作られた人間……

「……………」

レンは何も言えなかった。

（リンには「ココロ」が必要だ……。僕がこの手で作ってあげなくちゃ！）

彼は何年もかけてリンのために「ココロ」を作りはじめた。

だが、彼の時間はそう長くは続かない。

レンの体は次第に弱っていき、ようやく完成した頃にはもう力尽きていた。

「……………」

彼がいなくなったあとにもリンは表情を変える事なく立ち尽くしていた。

（彼ノ命ガ終ワル時マデ私ニ作ツテタ「ココロ」……）

リンは自分のために彼が命をかけて作ってくれた「ココロ」がどんなものなのか気になっていた。

ココロに近づく度に甦ってくる、彼との記憶。

「リン」

「？」

「よかった……また、会えて……うう」

彼は泣いていた。

「アナタは何故泣くの？」

デモ、私には泣いていれる理由がわからない。

「ん？どうした、リン」

「コレ……」

私が彼に見せた楽譜は「心を込めて」ト書いてあった。

「ああ。これはね、嬉しそうに歌うんだよ」

「嬉し……ソウ？」

ソナナコト言われても、私にはわからない。

彼女は「ココロ」という名のプログラムにたどり着き、自分を接続してみた。

すると、今までの記憶全てに宿っていた「ココロ」が一気に溢れ出てきた。

彼女は泣いた。

彼は泣かない。

だから、泣いた。

悲しくて、泣いた。

そしてリンは泣きながら彼に言った。

この世に私を生んでくれて、
一緒に過ごしてくれて、
私にいろんなことを教えてくれて、

- - - アリガトウ。

それから彼女は歌った。
永遠に歌いつづけた - - -

それはまさに奇跡でした。
`ココロ`を手に入れたロボットは歌い続けました。
想いを全て。

しかし、その奇跡もつかの間。

「ココロ」は彼女にはあまりにも大きすぎました。

その大きさに耐え切れず機械はショートし、二度と動く事はありませんでした。

しかし、その表情は笑顔に満ち溢れ、まるで天使のようでした。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1068p/>

ココロ・キセキ

2010年11月24日03時14分発行